

世界の玄関を見てみよう！

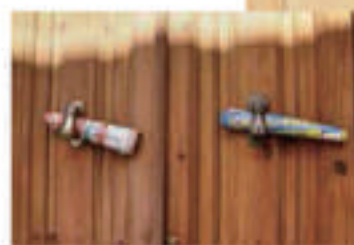
屋外と屋内をつなぐ場所である玄関は、家の第一印象を決める役割も果たす重要な場所です。靴を脱ぐための場所があること、室内との段差があることが、日本の玄関の特徴です。短時間の来客であれば家に上らず、玄関スペースを使って用件を済ませることができます。玄関の扉も、片開きのタイプや引き戸タイプなど、様々な種類があります。世界には、冷気を遮るため、光や熱を遮らないようにするためなど、独自の工夫が凝らされた玄関を持つ家がたくさんあります。また、中には玄関という概念自体がない国もあります。



ネパール



首都カトマンズにクラスヒンドゥー教徒の家には、玄関前に靴を脱ぐスペースがあります。玄関は入り口のみで、すぐに2階へ上がる階段があり、部屋へとつながっています。マリーゴールドは神様にお供えする花で、ネパールでは、花輪にして玄関や窓などに飾ります。



スペイン



夏は猛暑となる南部のアンダルシア州の玄関扉は、日差しが入らないように厚くつくられています。防犯のため、玄関扉の内側には、柵でできた扉がついています。玄関扉は取っ手が郵便物受けとしても使われ、上部には、その家が建てられた年号が表示されています。



ブラジル



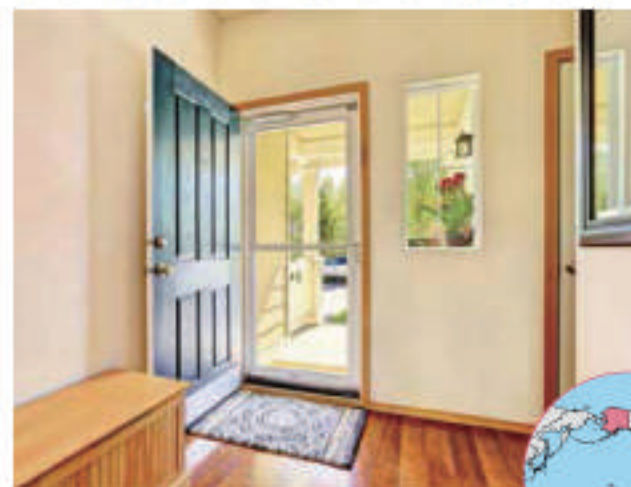
南部のクリチバには、階段を上った2階に玄関があるつくりになっている家が多くあります。1階部分は車庫や物置きスペースとして活用されています。入り口は防犯のために柵で覆われていて、簡単に玄関へアクセスができないようになっています。



イラン



イランの首都テヘランの一般的な家には、玄関スペースがありません。家に入るときは、入り口の外側が内側に脱いだ靴を並べておきます。地域によっては、靴を脱いだりする玄関のような空間が設けられている家もあります。



アメリカ合衆国



アメリカ中西部の一軒家の玄関扉は二重構造になっています。外に面した扉を、夏には網戸にし、冬にはガラス戸にして利用します。扉は防犯のために内側に開くようになっています。車社会のアメリカでは、普段は玄関よりも、ガレージにある室内へつながる勝手口から出入りすることが多いです。



インドネシア



高床式の住居に住む、南スラウェシ州シンジャイ島のブギス族の村の玄関は、2階へ続く階段の手前にあります。ここで靴を脱いで中に入ります。土地を有効に活用するため、1階部分では、農具を保管したり、家畜が飼われていたりしています。



世界のリビングを見てみよう!

リビングは、家族が集まり一家団楽をする憩いの場です。日本では「居間」、「茶の間」などとも呼ばれますが、家族全員でテレビを見ながらお茶などを飲むイメージが定着しています。近年では、食事をするダイニング（1巻で紹介）と一体化した、リビングダイニングのある家も増えました。世界のリビングは、お祈りをする場所、食事をする場所、全ての部屋につながる通り道となる場所などと、多様な意味を持つものが見受けられます。いずれにせよ、リビングは家族や来客と長い時間を過ごし、密なコミュニケーションが図られる場所であるということは共通しています。

イラン



イランの家で一番重要な場所がリビングです。リビングには、その家で一番価値のあるペルシャ絨毯が敷かれています。親戚や知人を招待して食事をするときは、リビングが食事スペースになります。絨毯の上に薄いビニールシートを敷いて食事を並べ、床に座り食事を取ります。昼食後は、リビングに布団を敷き詰めて、みんなで昼寝をします。普段からリビングの絨毯の上にはあまりものや家具などを置かず、なにもないスペースにしておき、イベントに合わせて多様な使い方をします。



ペルー



親との同居率が高いペルーでは、家族の人数も多い上、日常的に人を家に招く習慣があります。首都のリマでは、リビングはお客さんをおもてなしする場所でもあり、音楽を流して、みんなで「サルサ」と呼ばれるラテンの音楽に合わせて踊ったりします。



ベトナム



ベトナムの家は、玄関を開けるとすぐリビングがあります。ベトナム語では「フォンカック」と呼ばれ、「客室」の意味があります。その名の通り、お客さんが来たときはリビングに案内し、お茶を出すのが習慣です。多くの場合、床はタイル張りになっています。



ジョージア



コーカサス山脈にあるスバネティ地方の村には、リビングが外に直結している家があります。屋外で農作業などを行っている人たちが、昼食ときや休憩のときに、リビングに集まります。出入りがしやすいように、リビングは開けっ放しで、外から入りやすい場所に位置しています。

アメリカ合衆国



アメリカの一般家は、玄関を入ってすぐ側にリビングがあります。人の出入りが盛んな場所にあることで、家族同士が顔を合わせコミュニケーションを取りやすくしています。日本のリビングの何倍もの広さがあり、開放的な印象です。



イタリア



夏の時期、イタリア東南部のプーリア州では、40度前後まで気温が上がり、日中はほとんど人が外を出歩かないほど、暑い日々が続きます。多くの家のリビングは直射日光が当たらないように、窓がなかったり、シャッターや厚めのカーテンがつけられていたり、工夫が凝らされています。



世界の庭を見てみよう!

庭は私たちの生活に彩りと安らぎを与えてくれる空間です。日本人は昔から、全てのものに神が宿ると信じ、植物や自然のものを大切にしてくらしてきました。日本の古くからの庭が、池をつくり、植物や石などを用いながら、四季の変化を楽しむ工夫が凝らされてきたのも、その表れです。世界にも庭のある家は多くあり、その形態や使われ方は様々です。家の真ん中にある庭、儀式を行うための庭、野菜や果物が育てられている庭など、その国にふさわしい人たちの、様々な生活様式や考えが映し出されています。



スペイン



南部のアンダルシア州では、家の真ん中に「パティオ」と呼ばれる中庭があります。建物に囲まれたパティオは、吹き抜けになっていて、明るい空間が広がります。どの家のパティオも草花で賑やかに飾られています。家の外にある庭と違って、通りに面していないため、静かであることも特徴です。プライベート空間なので部屋着のままお茶を飲んだり、くつろぐこともできます。毎年5月には、草花を飾りつけて美しさを競い合う「パティオ祭り」が開催されます。



ベリーズ



中米ベリーズのベリーズシティの庭は、洗濯物を干す場所として活用されています。ベリーズでは洗濯物を乾かすときに、同じ色のものを並べる習慣があり、色を分けずに干すと、家族に注意されるほどです。庭に生える植物の緑と青空、そして統一された色の洗濯物がとてもきれいなコントラストの風景を生み出します。



アメリカ合衆国



アメリカでは一般的に、家を敷地の中心に建て、前庭、裏庭ができるように設計されています。裏庭にプールやバーベキュースペースがある家も多いです。道路沿いに面している前庭には、芝生が植えられています。芝を美しく刈り、手入れするのはエチケットでもあり、その家を評価する基準でもあります。



ネパール



シェルバ族がくらすネパールのヒマラヤ地域にあるクムジュン村では、多くの村人が庭や畑を持っています。庭では、燃料にするためのヤクの糞を乾かします。また年に数回行われる、春や秋を迎えるための祈禱旗の交換の儀式を行う場所にもなります。



ロシア



ロシアには伝統的な「ダッチャ」と呼ばれる別荘があります。週末や長期の休みなどに家族で過ごす場所です。ダッチャの庭は菜園になっていて、様々な野菜や果物が育てられています。日々の食料源をつくる大切な場所です。

マダガスカル



真っ赤な土が印象的な、中央高地にくらすメリナ族の家の庭は、子どもたちの遊び場、洗濯物を干す場所、人が集まりおしゃべりをする場所です。観葉植物やバナナの木が周囲に植えられています。その庭の所有者でなくても、近所の人たちが自由に利用します。

